



研究データ管理サービスGakuNi nRDMの概要

込山, 悠介

(Citation)

令和3年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業「研究データポリシーの策定に向けて」

(Issue Date)

2021-11-29

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90008825>



研究データ管理サービス GakuNin RDMの概要

国立情報学研究所
コンテンツ科学研究系 /
オープンサイエンス基盤研究センター

込山 悠介

イントロダクション

オープンサイエンス時代の 研究データ基盤構築に向けた国内の政策的経緯 (再掲)

- 2015年3月：内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書
- 2016年1月：政府「第5期科学技術基本計画」
- 2016年2月：文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会
「学術情報のオープン化の推進について」
- 2016年5月：G7茨木・つくば科学技術大臣会合 つくばコミュニケ（共同声明）
- 2016年5月：政府「科学技術イノベーション総合戦略2016」
- 2016年7月：日本学術会議
「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」（提言）
- 2017年6月：政府「科学技術イノベーション総合戦略2017」
- 2018年6月：政府「統合イノベーション戦略」
- 2019年6月：政府「統合イノベーション戦略2019」
- 2020年6月：日本学術会議「オープンサイエンスの深化と推進に向けて」（提言）
- 2020年7月：政府「統合イノベーション戦略2020」
- 2021年3月：政府「第6期科学技術・イノベーション基本計画」
- 2021年4月：政府「公的資金による研究データ管理・利活用に関する基本的な考え方について」
- 2021年6月：政府「統合イノベーション戦略2021」

第6期科学技術・イノベーション基本計画 (2021年)

「新たな研究システムの構築（オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進）」 における目標

【目標】

- オープン・アンド・クローズ戦略に基づく研究データの管理・利活用、世界最高水準のネットワーク・計算資源の整備、設備・機器の共用・スマート化等により、研究者が必要な知識や研究資源に効果的にアクセスすることが可能となり、データ駆動型研究等の高付加価値な研究が加速されるとともに、市民等の多様な主体が参画した研究活動が行われる。

【科学技術・イノベーション政策において目指す主要な数値目標】（主要指標）

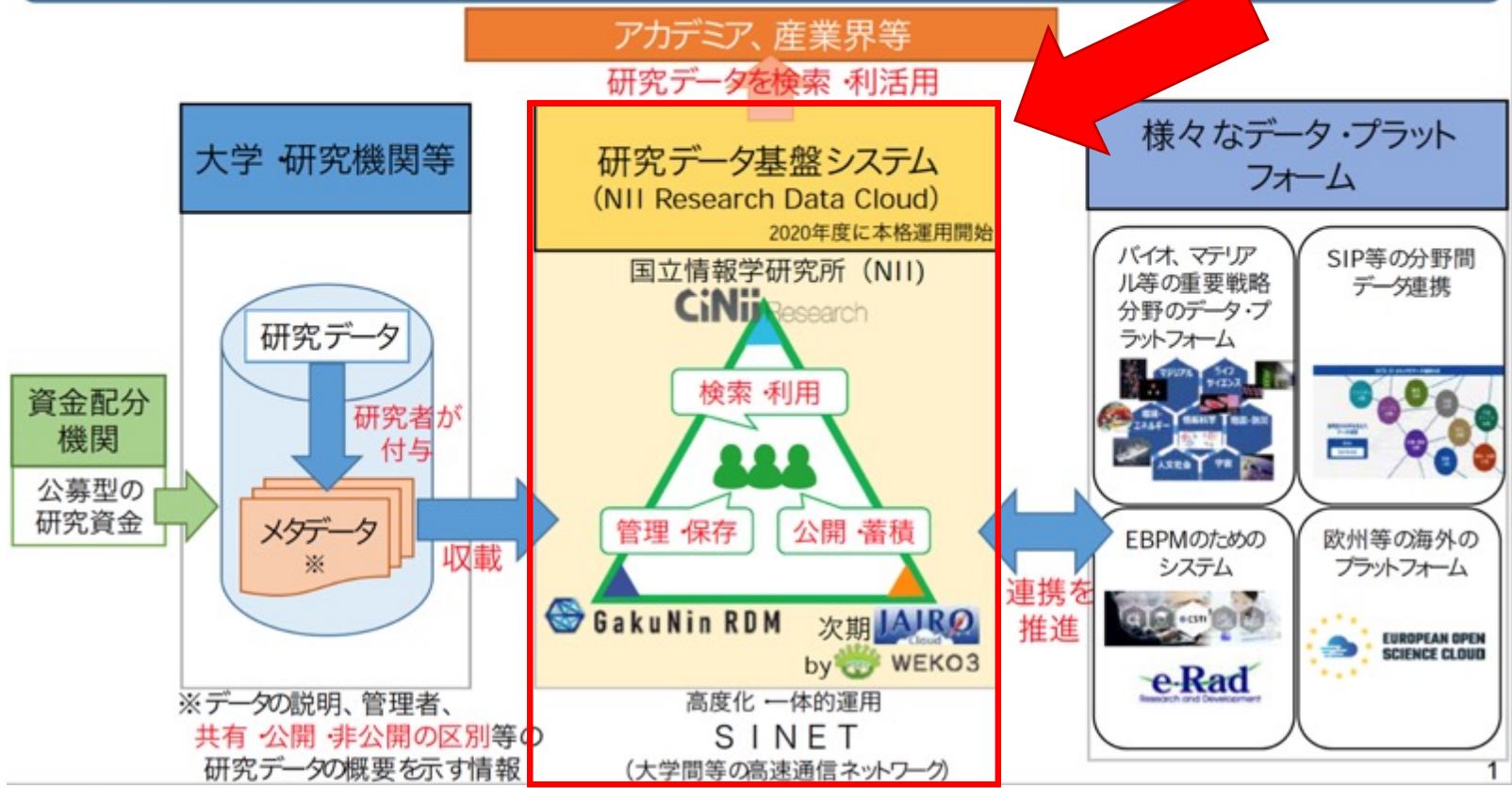
- 機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人において、2025年までに、**データポリシーの策定率が100%**になる。公募型の研究資金の新規公募分において、2023年度までに、**データマネジメントプラン（DMP）**及びこれと連動した**メタデータの付与**を行う仕組みの導入率が**100%**になる。

公的資金による研究データ管理・利活用に関する基本的な考え方について (2021年)

公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方について

研究データ基盤システムを中核としたデータ・プラットフォームの構築

- 研究データの公開・共有を推進、産学官のユーザが**データを検索可能**
 - ムーンショット型研究開発制度**における試行(2020年度開始)、その後、次期SIPに導入
- **全ての公募型の研究資金**の新規公募分に導入(2023年度まで)



学術機関における 研究データ管理に関するステークホルダー

学内での研究データ管理の位置付・方針決定	研究データ管理規定（ポリシー）	大学執行部 研究推進部
	機関リポジトリ運用規則（利用規程、データのエンバーゴ/破棄期間の設定等）	大学図書館 研究推進部
情報基盤の整備	ストレージ、機関リポジトリ、認証、セキュリティ	情報基盤センター
	各手続きのためのシステム構築・運用（10年保存（研究者転出等への対応含む）、公開・長期保存、研究評価等向け可視化）	情報基盤センター
研究データ管理体制	研究データ管理の事務体制（DMP, 研究データ10年保存）	研究推進部
	研究過程における研究データ管理（データ構造化、管理、説明資料等付加）	URA 研究者、研究室スタッフ
	研究データ登録・申請手続き（根拠データ、公開データ、長期保存データ）	研究者、研究室スタッフ
	研究データ保存・公開手続き（保存・公開前の内容確認、データ管理情報等の付与）	大学図書館
啓蒙啓発、研修体制	データ管理計画（DMP）作成支援	研究推進部 大学図書館
	研究データ管理研修（院生・研究者向け、研究支援者向け）	大学図書館 研究推進部
研究データ利用体制	研究評価・研究戦略策定のための利用体制と手続	URA
	共同研究、産学連携等のための連携体制と利用	URA 研究推進部

学術機関で組織的な研究データ管理制度を導入するには、様々な関係各所との調整が課題。トップダウンでポリシー策定や部局横断のTFを組織するご指示が必要。

大学ICT推進協議会（AXIES）のRDM文書 1

• 学術機関における研究データ管理に関する提言 (2019)

- 学術機関における研究データ管理は、情報基盤、図書館、研究推進、研究公正、といった複数部門の連携・協力体制を必要。機関内における共通認識醸成を目的に作成された。
- 本提言は、学術機関がデジタル時代において踏まえるべき研究データ管理の理念や考え方の観点を記述。研究データ管理は機関内の多様なステークホルダによる連携と協力が必要。AXIESの主な参加機関である高等教育・学術研究機関における最高情報責任者(CIO)、機関の執行部をはじめ様々な部署において、本提言が参照され、各機関での研究データ管理体制が構築されている。
- 主査は名古屋情報連携推進本部（当時は京都大学）の青木学聡教授



副査：船守 美穂 准教授（国立情報学研究所
情報社会相関研究系/オープンサイエンス基盤研究センター）

<https://rdm.axies.jp/files/report/publications/proposal/rdm-recommendation.pdf>



大学ICT推進協議会（AXIES）のRDM文書2

• 大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン (2021)

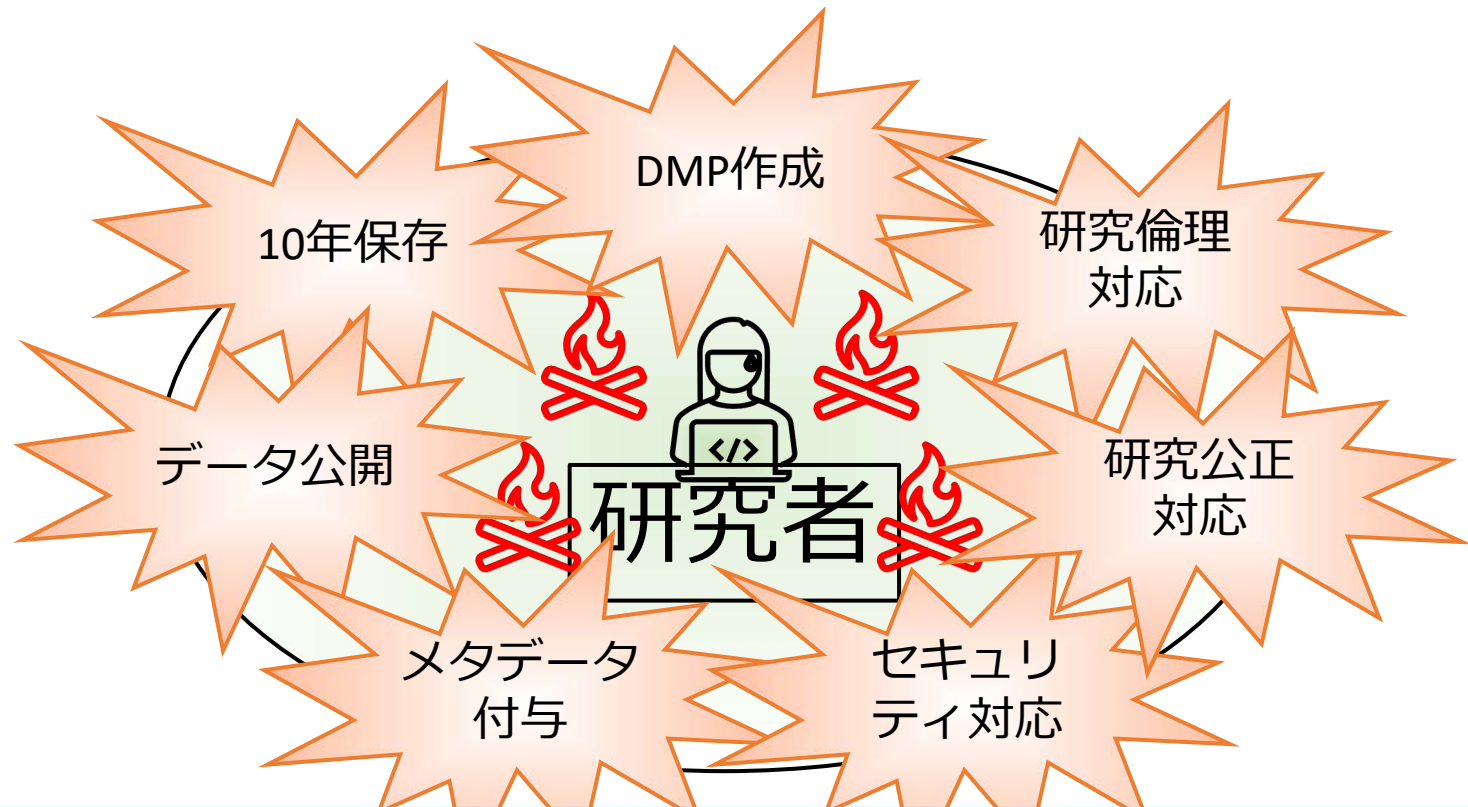
- 本ガイドラインは、提言に沿って組織的な研究データマネジメント(Research Data Management, RDM)を進めるためには、どのような基本方針を定めるべきか、またその策定に至るまでにどのような作業を必要とするか、を取りまとめたものである。各大学でのRDM取り組み状況や研究データポリシー策定途上での実際的な課題を取りまとめた「大学における研究データ管理体制構築への道のり」も付録として収録。
- 主査は名古屋情報連携推進本部の青木学聡教授



副査：船守 美穂 准教授（国立情報学研究所
情報社会相関研究系/オープンサイエンス基盤研究センター）



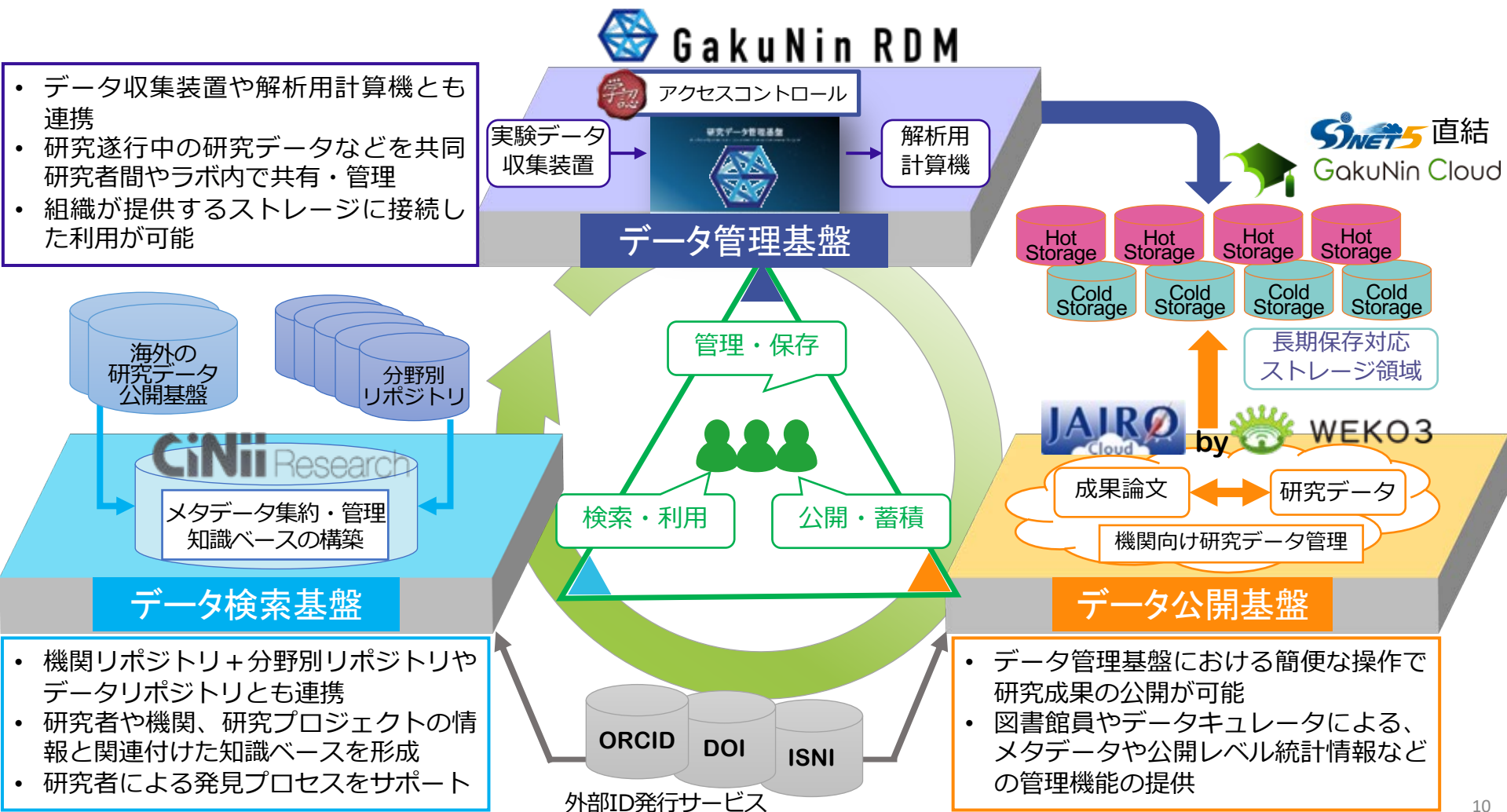
研究データ管理やデータガバナンスが研究者に与えるストレス



学術機関における研究データ管理やデータガバナンスには「余計な作業」を「必要な作業」に転換するDXが不可欠

国立情報学研究所の研究データ基盤 NII Research Data Cloud (NII RDC)

2017年から開発開始 ⇒ 2021年から運用開始



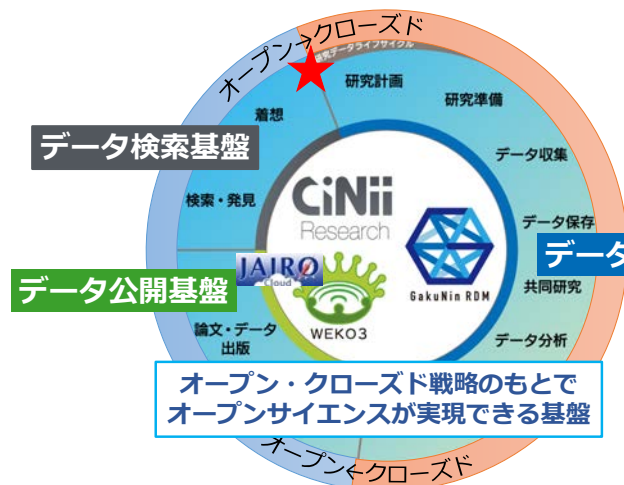
- データ収集装置や解析用計算機とも連携
- 研究遂行中の研究データなどを共同研究者間やラボ内で共有・管理
- 組織が提供するストレージに接続した利用が可能

- 機関リポジトリ+分野別リポジトリやデータリポジトリとも連携
- 研究者や機関、研究プロジェクトの情報と関連付けた知識ベースを形成
- 研究者による発見プロセスをサポート

- データ管理基盤における簡便な操作で研究成果の公開が可能
- 図書館員やデータキュレータによる、メタデータや公開レベル統計情報などの管理機能の提供

研究データ管理サービス GakuNin RDMの概要

研究データ管理サービスGakuNin RDMとは？



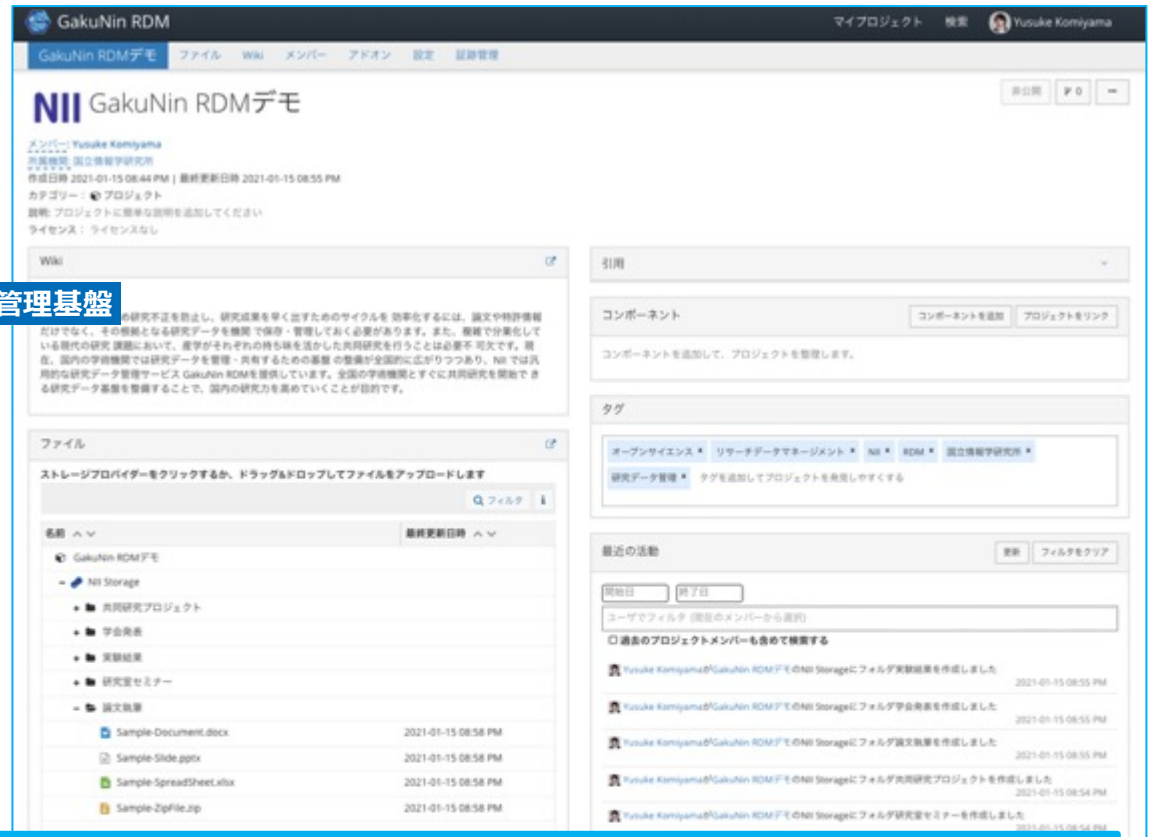
データ検索基盤

データ公開基盤

データ管理基盤

オープン・クローズド戦略のもとで
オープンサイエンスが実現できる基盤

研究データプロセスと
研究データ基盤
NII Research Cloud



GakuNin RDM (GRDM) は、国立情報学研究所 (NII) で運用している研究データ基盤NII Research Cloudの一部で、研究中のクローズド (非公開、制限共有) なデータを取り扱う事に特化したRDMサービス。2021年4月からは24時間365日オペレーターを配置した運用体制で全国の学術機関にRDMサービスを提供。

研究データ管理基盤 GakuNin RDMとは

GakuNin RDMのサービスビジョン

研究推進

データ共有による研究効率の上昇
資金提供元や産業界のポリシー要求を満足

データ共有とクレジット

研究倫理

研究公正

研究不正を抑止・追跡調査できること
研究における疑念行為を抑止・追跡調査できること

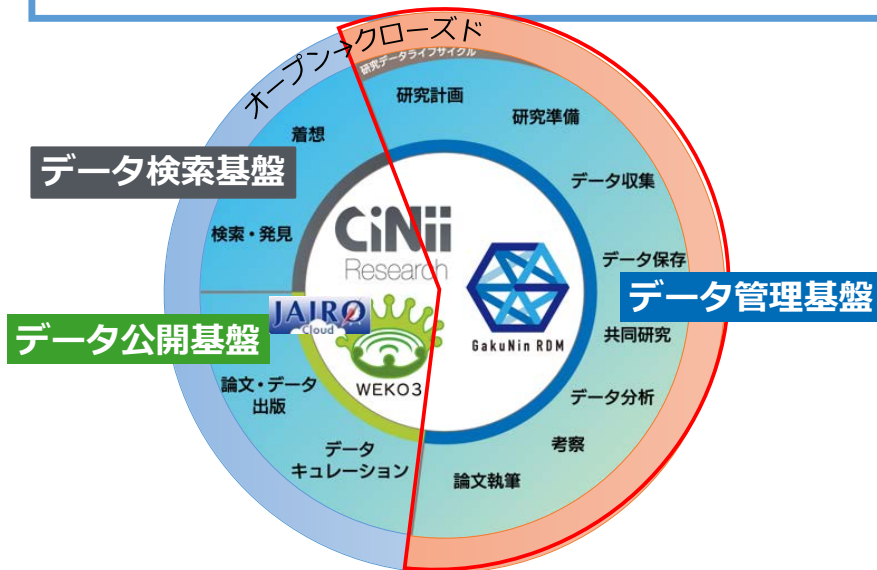
トレーサビリティ

可視化

RDM基盤構築

研究者の需要

機関の要望



(1) 研究データ共有機能（基本機能）

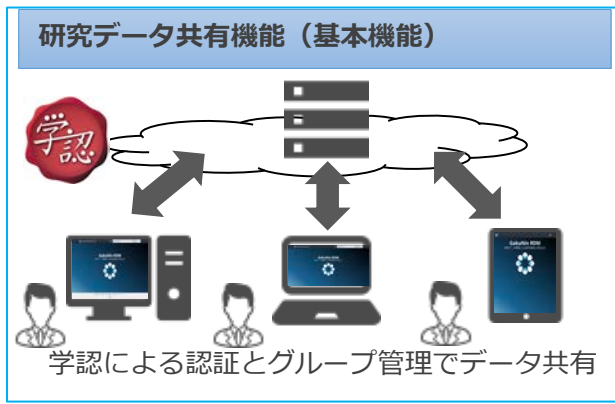
(2) NII研究データ基盤と外部ツールとの連携

(3) 研究証跡の保存機能

(4) 機関利用のための管理機能

学認フェデレーション参加のIdPと連携可能 調達が不要でシステム導入が容易

GakuNin RDMポータルからのプルダウンメニューから自機関を選択



自機関の認証システム (IdP) でログイン

シングルサインオンで GakuNin RDM を利用

GRDMでは、学術認証（学認）フェデレーションにサービスプロバイダ（SP）として登録済みのため、学認に参加していればアイデンティティプロバイダ（IdP）連携のみで導入が可能

研究データ管理プロジェクト画面

研究プロジェクトでのデータ共有・管理

この画面は、研究プロジェクトのメタデータとファイル管理を管理するためのインターフェースです。

- タイトル**: プロジェクトの名称
- 共著者**: 共同研究者のリスト
- 日付**: プロジェクトの開始日
- ライセンス**: データの共有ライセンス
- 要旨 (Wiki)**: プロジェクトの概要
- ファイル管理**: データファイルのアップロードと管理
- 引用**: 研究結果の引用
- 関連プロジェクト**: 関連する他のプロジェクト
- 検索用タグ**: データを検索するためのタグ
- 操作ログ**: プロジェクトへの操作履歴

プレビュー機能

この機能は、プロジェクト内のPDFドキュメントをプレビュー表示することができます。

プロジェクト用Wiki

この機能は、プロジェクトに関する情報をWiki形式で共有し、更新することができます。

マルチクラウドファイルマネージャー (構成例)

- Google Drive
- Nextcloud
- NII Storage
- One Drive

Name	Size	Version	Download...	Modified
Demo project				
Google Drive: OSF_hoge				
RDM_Demo1				
RDM_Demo2				
RDM_Demo3				
Nextcloud: Documents				
About.odt	77.4 kB			2019-01-29 03:11 PM
About.txt	1.1 kB			2019-01-29 03:11 PM
Nextcloud Flyer.pdf	2.5 MB			2019-01-29 03:11 PM
User Data Manifesto.pdf	36.9 kB			2019-01-29 03:11 PM
NII Storage				
demo				
DEMO_CSV_FILES.csv	3.8 kB	2	0	2018-12-14 05:34 PM
RCOS_leafletA3_2018.pdf	803.3 kB	1	0	2018-12-14 05:34 PM
RCOS/パンフレット英文原稿_Faquette氏_渡東原稿v2_GROM.docx	22.4 kB	1	0	2018-12-14 05:34 PM
OneDrive: RDM_Sync				

バージョン管理

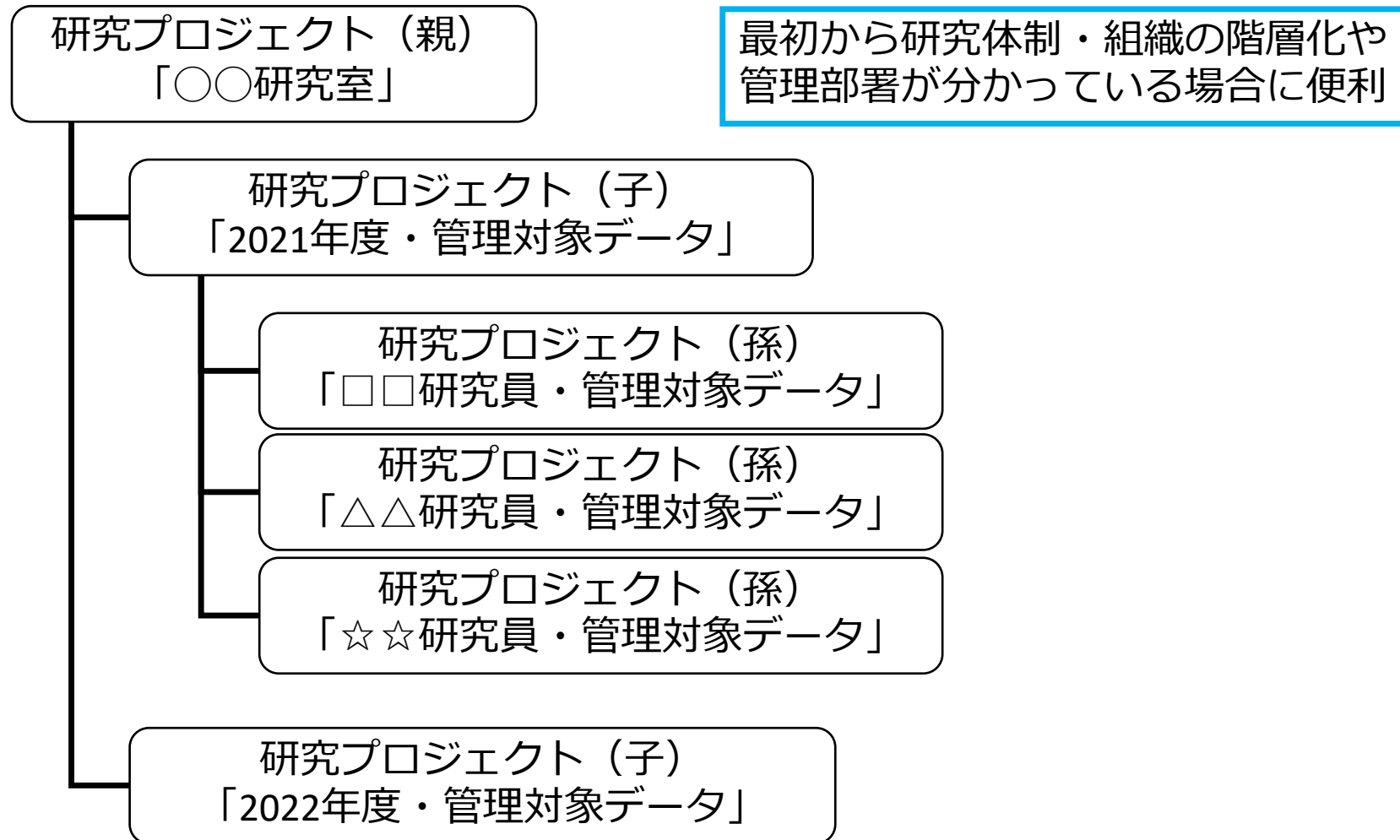
ディスカッション機能

この機能は、プロジェクトメンバー間でディスカッションを行うことができます。



研究プロジェクトの階層構造化 (コンポーネント機能)

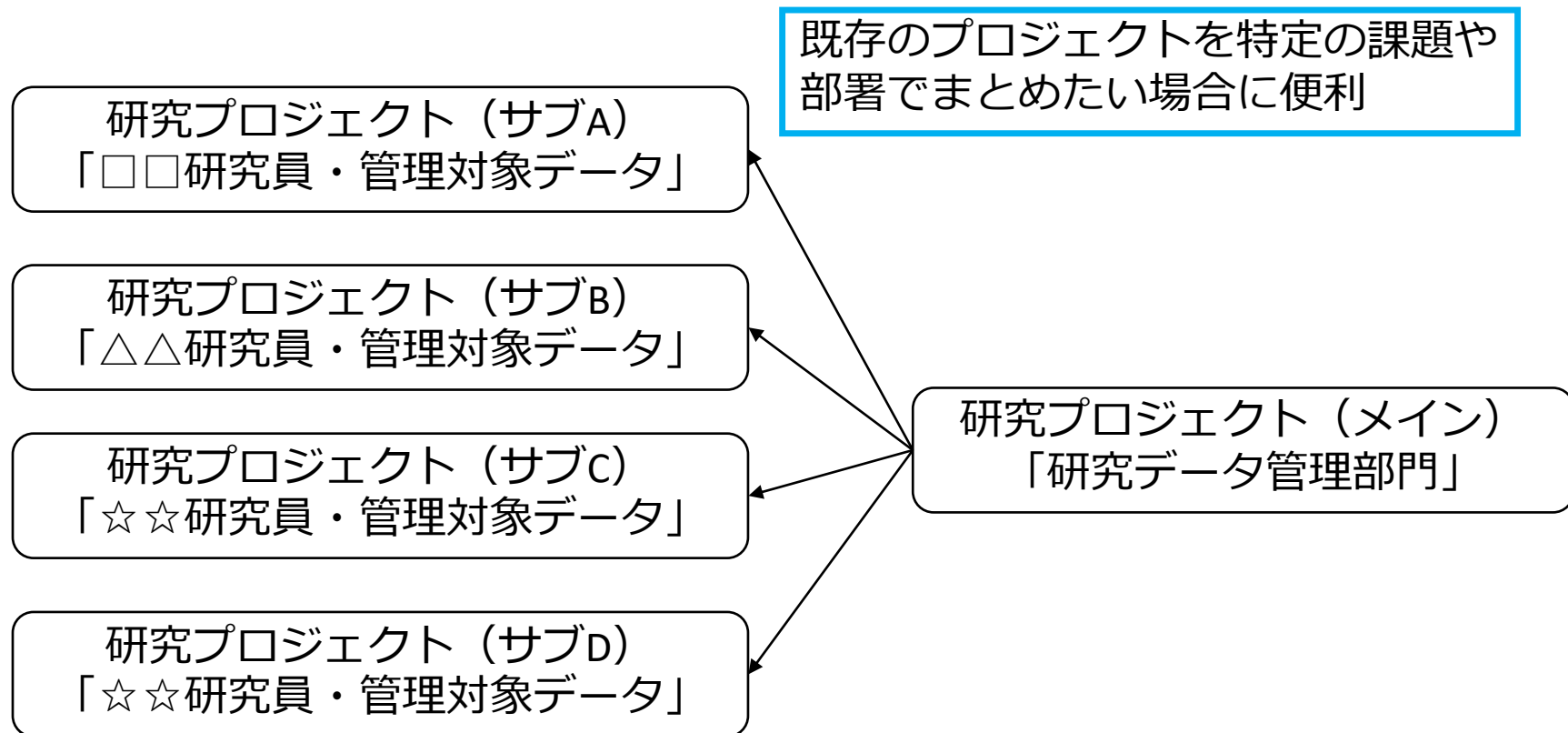
* 研究プロジェクト：（GakuNin RDMのデータ管理の単位）





研究プロジェクトの集約機能 (リンク機能)

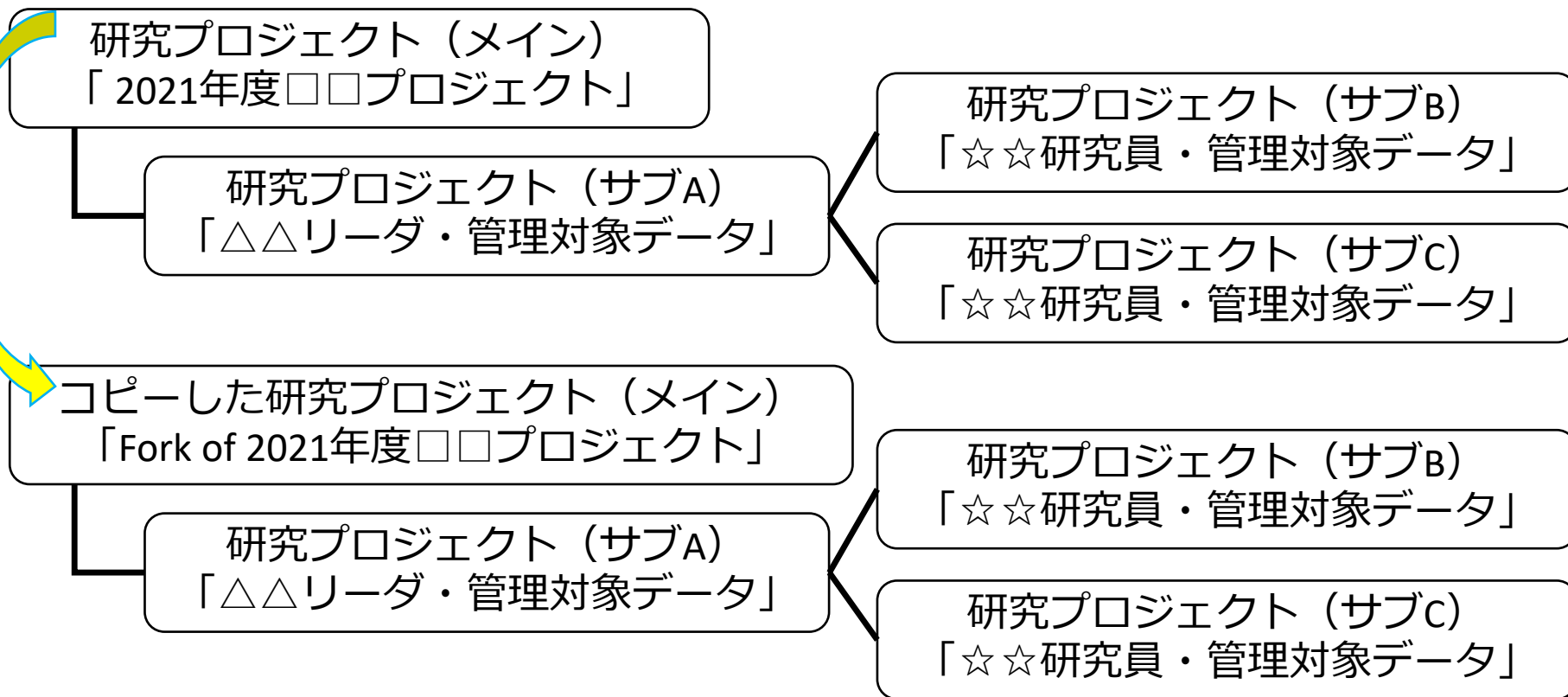
* 研究プロジェクト：（GakuNin RDMのデータ管理の単位）



研究プロジェクトのコピー機能 (フォーク機能)

* 研究プロジェクト：（GakuNin RDMのデータ管理の単位）

プロジェクト構成をそのままコピーして
条件に応じて編集したい時に便利



研究室や共同研究者間でのデータ管理・共有

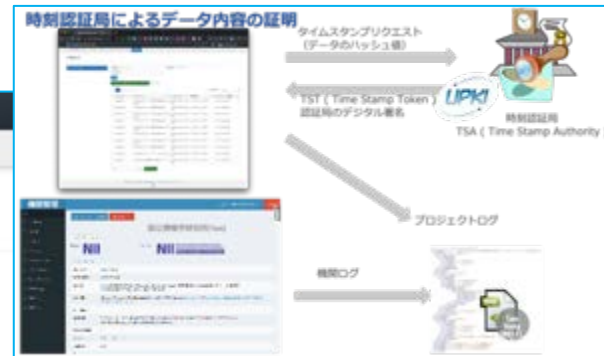
The screenshot shows the GakuNin RDM Trial interface. At the top, there is a navigation bar with "GakuNin RDM Trial" on the left, "My Projects" in the center, and a user profile "情報 太郎 (教員, 研究者)" on the right. Below the navigation bar, there are tabs for "デモプロジェクト", "Files", "Wiki", "Contributors", "Add-ons", "Settings", and "Timestamp". The main content area displays a list of files and folders. Three specific project directories are highlighted with red boxes and labeled in red text:

- 教員ディレクトリ**: A directory under "Google Drive: GakuNin RDMデモ" containing files like "Sample-Document.docx", "Sample-Slide.pptx", "Sample-SpreadSheet.xlsx", and "Sample-ZipFile.zip".
- 学生Aのディレクトリ**: A directory under "次郎プロジェクト" containing a file "Sample-Document.docx".
- 学生Bのディレクトリ**: A directory under "三郎プロジェクト" containing a file "Sample-SpreadSheet.xlsx".

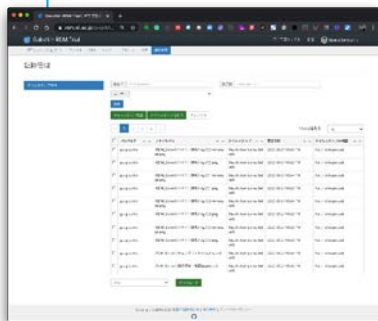
Name	Size	Version	Downlo...	Modified
- Google Drive: GakuNin RDMデモ				
- NII Storage				
Sample-Document.docx	6.9 MB	1	0	2019-10-23 09:53 PM
Sample-Slide.pptx	7.8 MB	1	0	2019-10-23 09:49 PM
Sample-SpreadSheet.xlsx	1.2 MB	2	0	2019-10-23 09:27 PM
Sample-ZipFile.zip	7.4 MB	1	0	2019-10-23 09:15 PM
- 次郎プロジェクト				
- NII Storage				
Sample-Document.docx	6.9 MB	1	0	2019-10-23 10:32 PM
- 三郎プロジェクト				
- NII Storage				
Sample-SpreadSheet.xlsx	1.2 MB	1	0	2019-10-23 10:32 PM

GRDMでは、標準で利用可能なストレージを提供、学内の研究者がWebブラウザ上で学内外の共同研究者とデータ共有・管理が可能。プロジェクトの階層化も可能であるため、大型研究プロジェクトにも対応可。

研究データの証跡管理機能で 研究不正を未然に防止



研究証跡の保存機能



システム外でファイルに変更があった可能性を検出

プロバイダ	ファイルパス	タイムスタンプ	更新日時	タイムスタンプの検証
s3	/プレゼン資料/案1)_GakuNinRDM.pptx	Yusuke Komiya (CH Pk4)	2021-01-16 05:22 AM	Fail: not inspected.
s3	/プレゼン資料/案2)_GakuNinRDM.pptx	Yusuke Komiya (CH Pk4)	2021-01-16 05:22 AM	Fail: not inspected.

時刻認証事業者のタイムスタンプで
ファイルの存在を証明



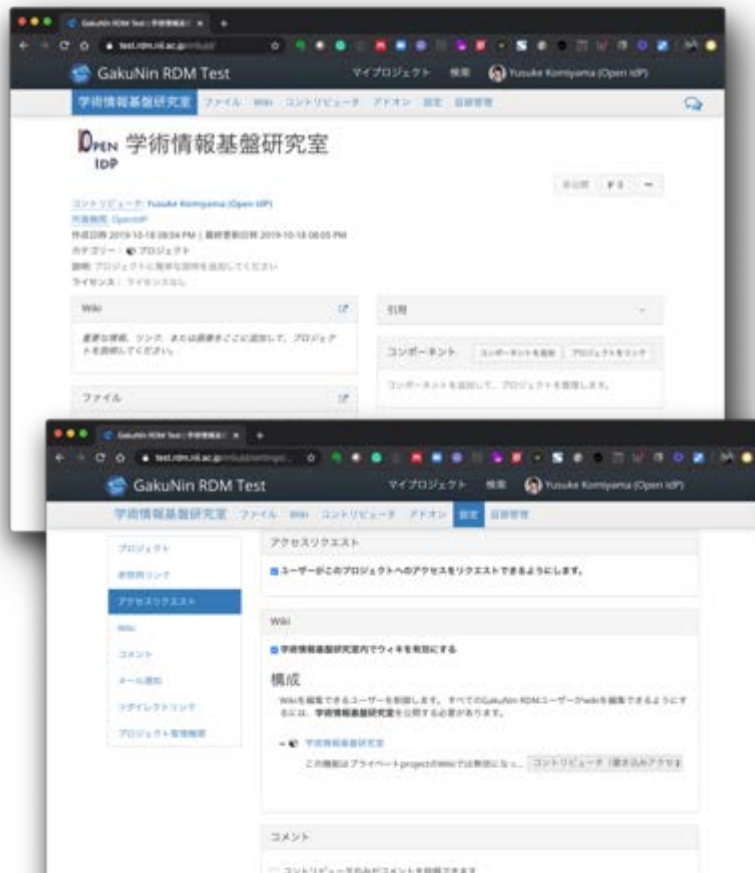
GRDMでは、システム中に保存されたユーザーデータについて、UPKIタイムスタンプサービスの時刻認証局サーバと連携。ある時刻でのファイルの存在を証明。システム外でファイルが操作された場合に検出され、研究主催者はダウンロードして確認することが可能。

データやプロジェクトの検索インターフェース

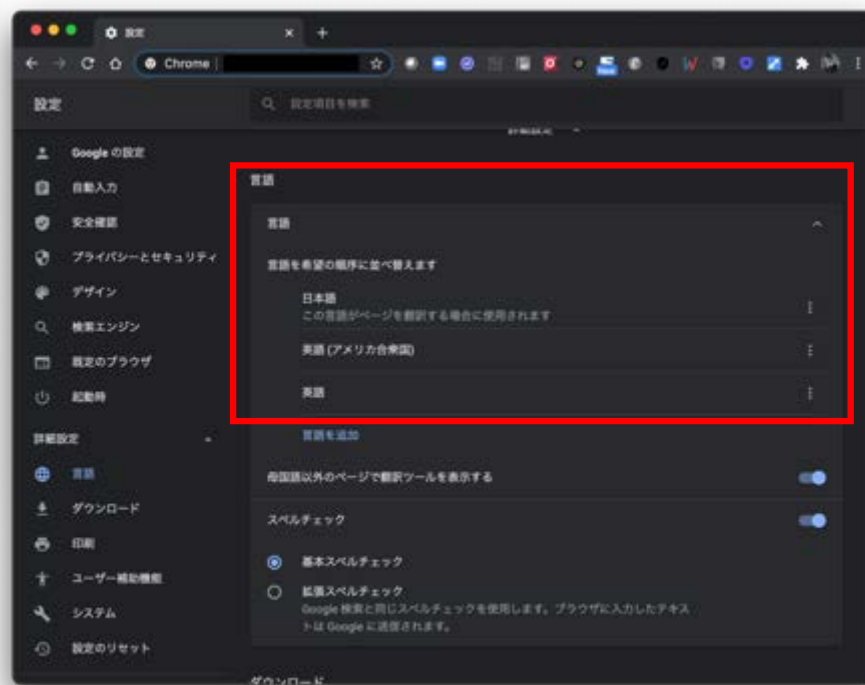
The screenshot displays the GakuNin RDM search interface. The top navigation bar includes the GakuNin RDM logo and a search bar. Below the search bar, there are filters for 'Project', 'File', 'Type', and 'Wiki'. The main content area shows search results for various projects, including '材料科学分野の産学連携', '生命科学分野の学会資料', '情報学分野の研究集会', and 'GakuNin RDMの開発プロジェクト'. A dropdown menu is open on the right side, showing sorting options such as '更新日時の新しい順' (Selected), '更新日時の古い順', '作成日時の新しい順', '作成日時の古い順', 'プロジェクト名の正順', 'プロジェクト名の逆順', 'ファイル名の正順', 'ファイル名の逆順', 'ユーザー名の正順', 'ユーザー名の逆順', '機関名の正順', '機関名の逆順', 'Wikiタイトルの正順', and 'Wikiタイトルの逆順'. A red box highlights the dropdown menu, and another red box highlights the search results for 'GakuNin RDMの開発プロジェクト'. A red arrow points from the dropdown menu to the search results for 'GakuNin RDMの開発プロジェクト'.

利用ユーザがアクセス権限のあるファイルとプロジェクトのみが検索できるプライベート検索です。プロジェクト、ファイルのコメントも検索対象になっています。検索結果のソート機能もあります。

ユーザインタフェースの日本語・英語への対応



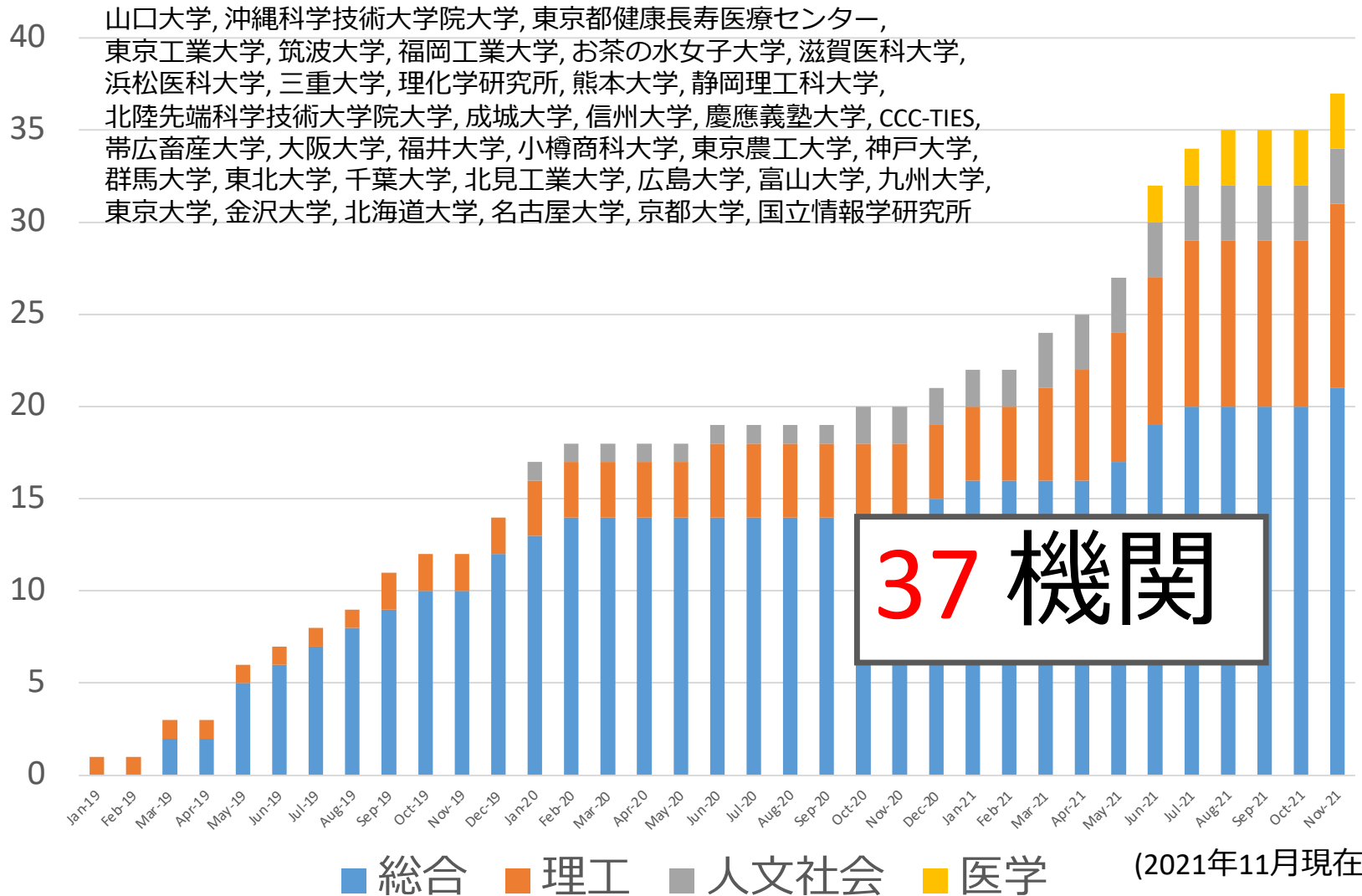
Google Chromeの場合の言語設定切替



UIの多言語化（日本語・英語）に対応しました。
「**Webブラウザ**」の言語設定の優先順位の変更で、
言語を切替えることが可能になっています。

GakuNin RDMの利用事例

GakuNin RDM利用機関数の増加



37 機関

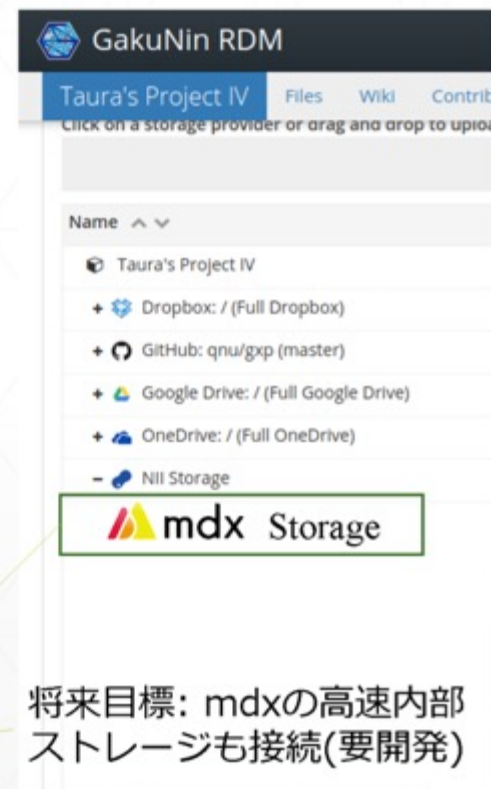
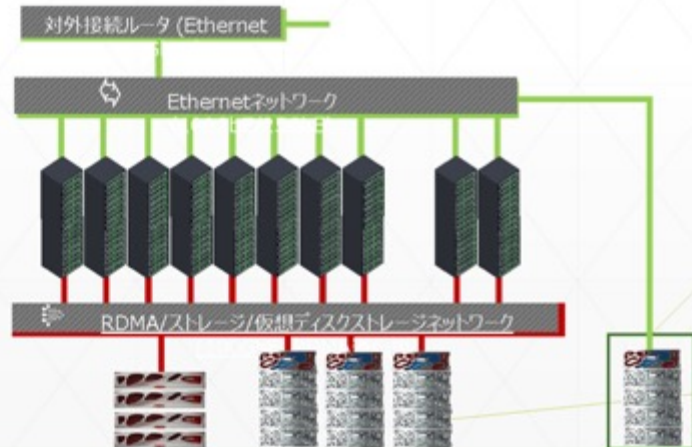
『GakuNin RDM 利用機関数』

<https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/pages/viewpage.action?pageId=41588114>

GakuNin RDM と mdx の接続

データ活用社会創成プラットフォームmdx

- mdxの共有オブジェクトストレージ (S3互換)をGakunin RDMと接続
- つまり, ストレージ+アクセス性能のよい高性能計算機をmdxが提供

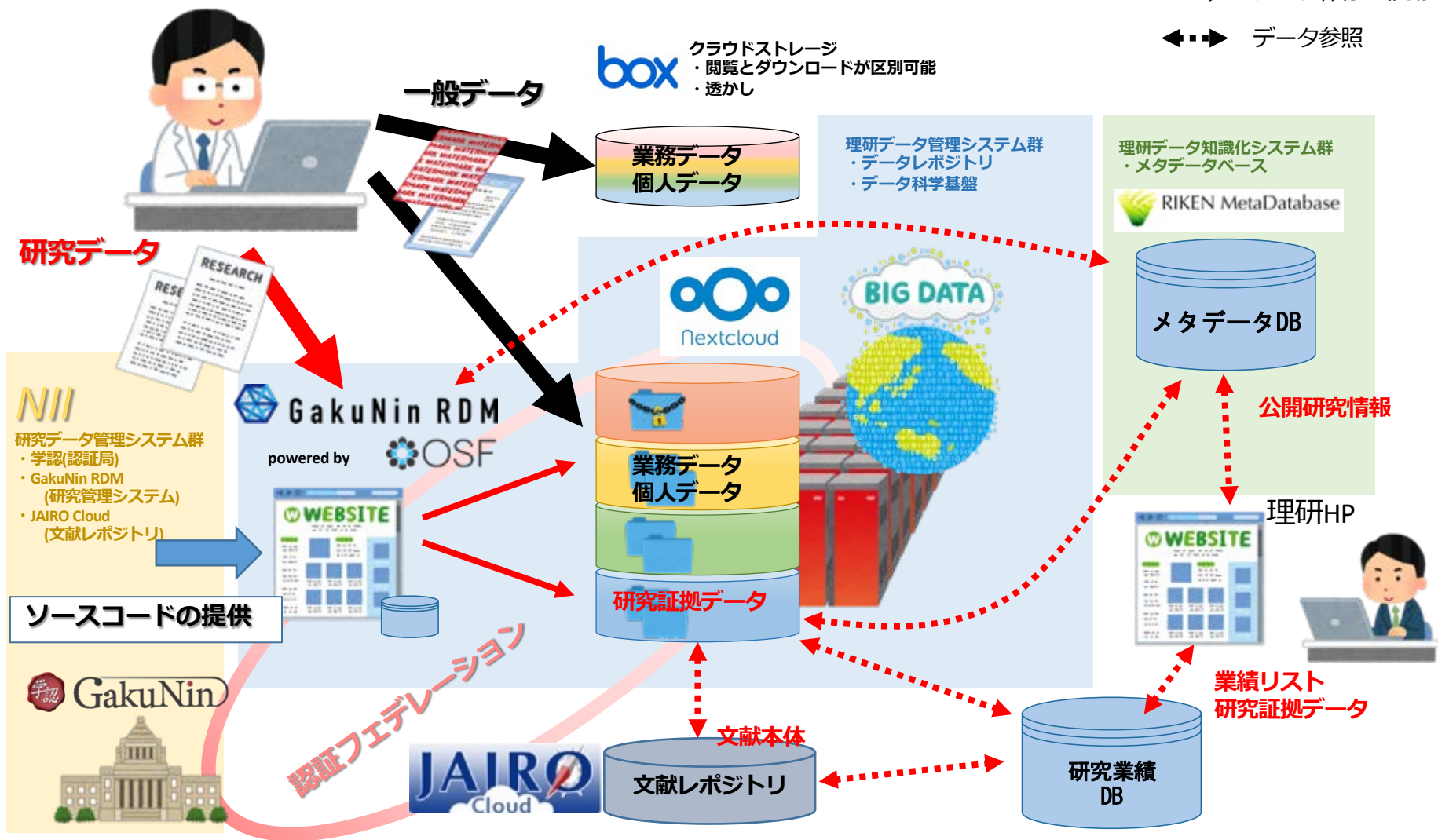


<https://tinyurl.com/issp-ws-taura> 物性科学におけるデータ科学の今と未来
tau@eidos.ic.i.u-tokyo.ac.jp

2021年2月24日 21

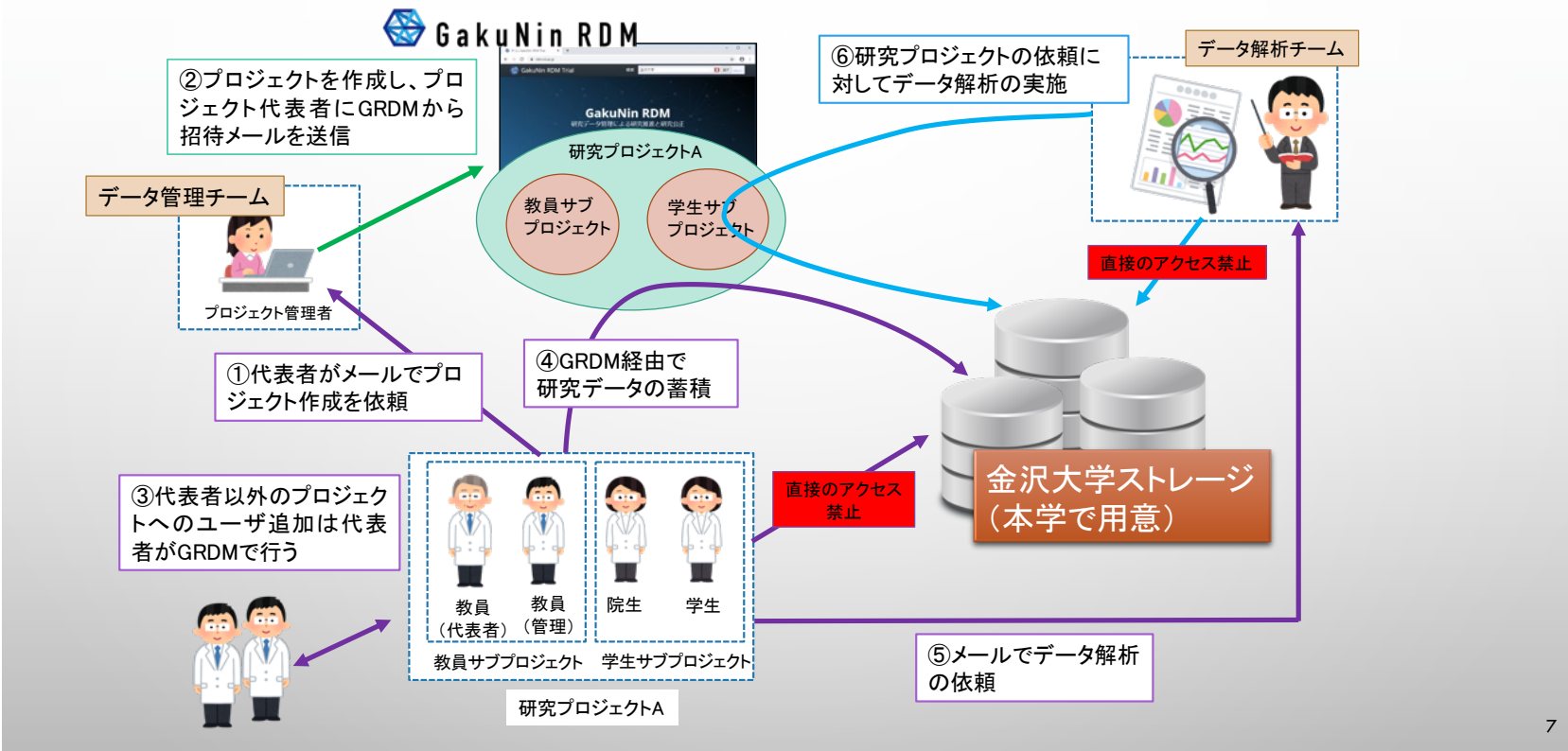
理化学研究所 情報統合本部 オープンサイエンス推進情報基盤の構築

→ データ保存・移動
⇄ データ参照



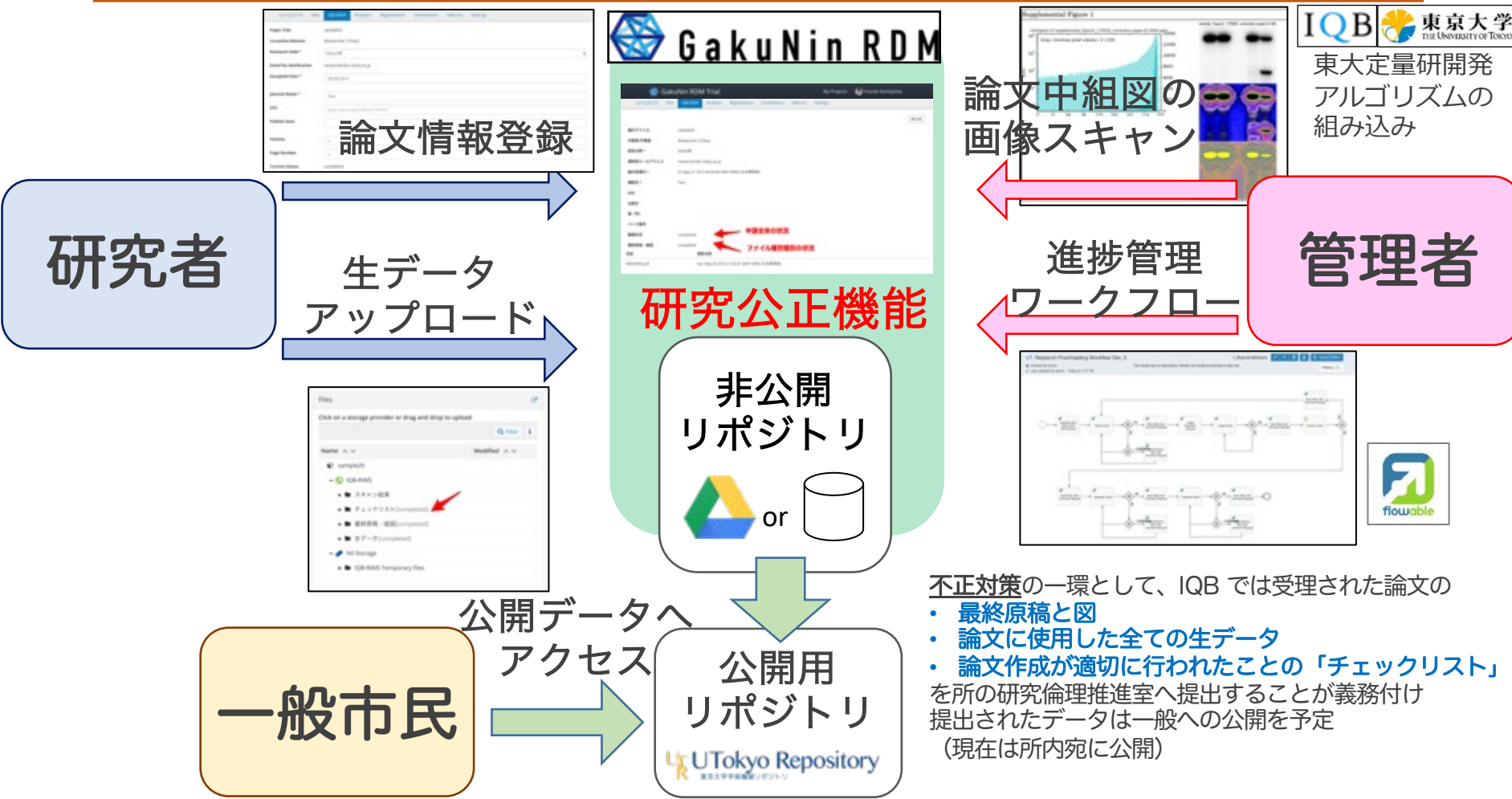
金沢大学コアファシリティ(学術メディア創成センター) データ管理基盤と実験装置・計測装置との連結

金沢大学RDM基盤概要



松平拓也先生 (金沢大学学術メディア創成センター),
 金沢大学におけるRDM環境の構築,
https://www.nii.ac.jp/openforum/2021/day2_rcos3.html

東京大学 定量生命科学研究所 研究公正管理システム (IQB-RIMS)



不正対策の一環として、IQB では受理された論文の

- 最終原稿と図
- 論文に使用した全ての生データ
- 論文作成が適切に行われたことの「チェックリスト」

を所の研究倫理推進室へ提出することが義務付け
提出されたデータは一般への公開を予定
(現在は所内宛に公開)

RIMS: Research Integrity Management System
全論文データの登録・保管・公開を支援するフレームワークの開発

北見工業大学（北海道国立大学機構） GakuNin RDM を軸としたオープンイノベーション

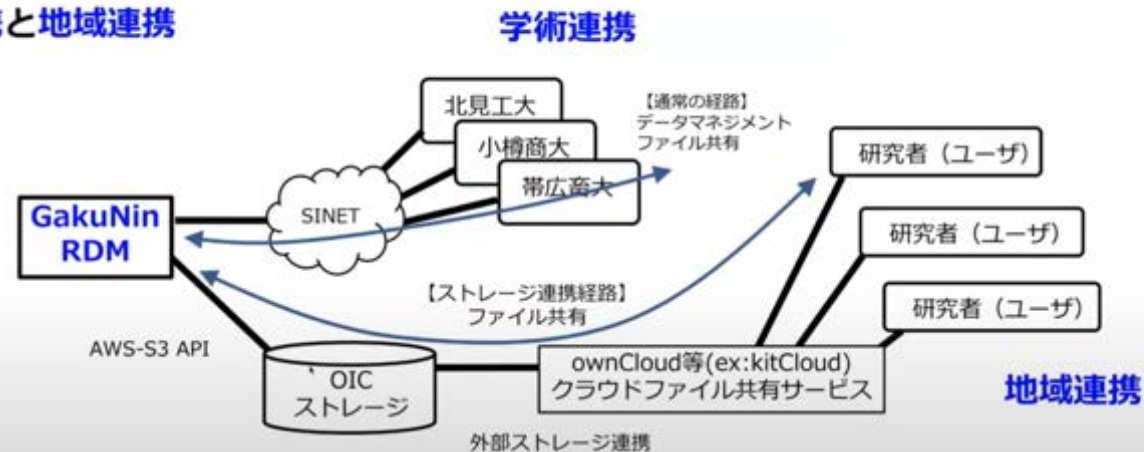
工学・商学・農学の異分野の大学経営統合に際しての利活用

GakuNin RDMデモ：GakuNin RDMを軸としたオープンイノベーション/北見工業大学・升井洋志、小樽商科大学・三浦克宜



特徴的な取り組み

学術連携と地域連携

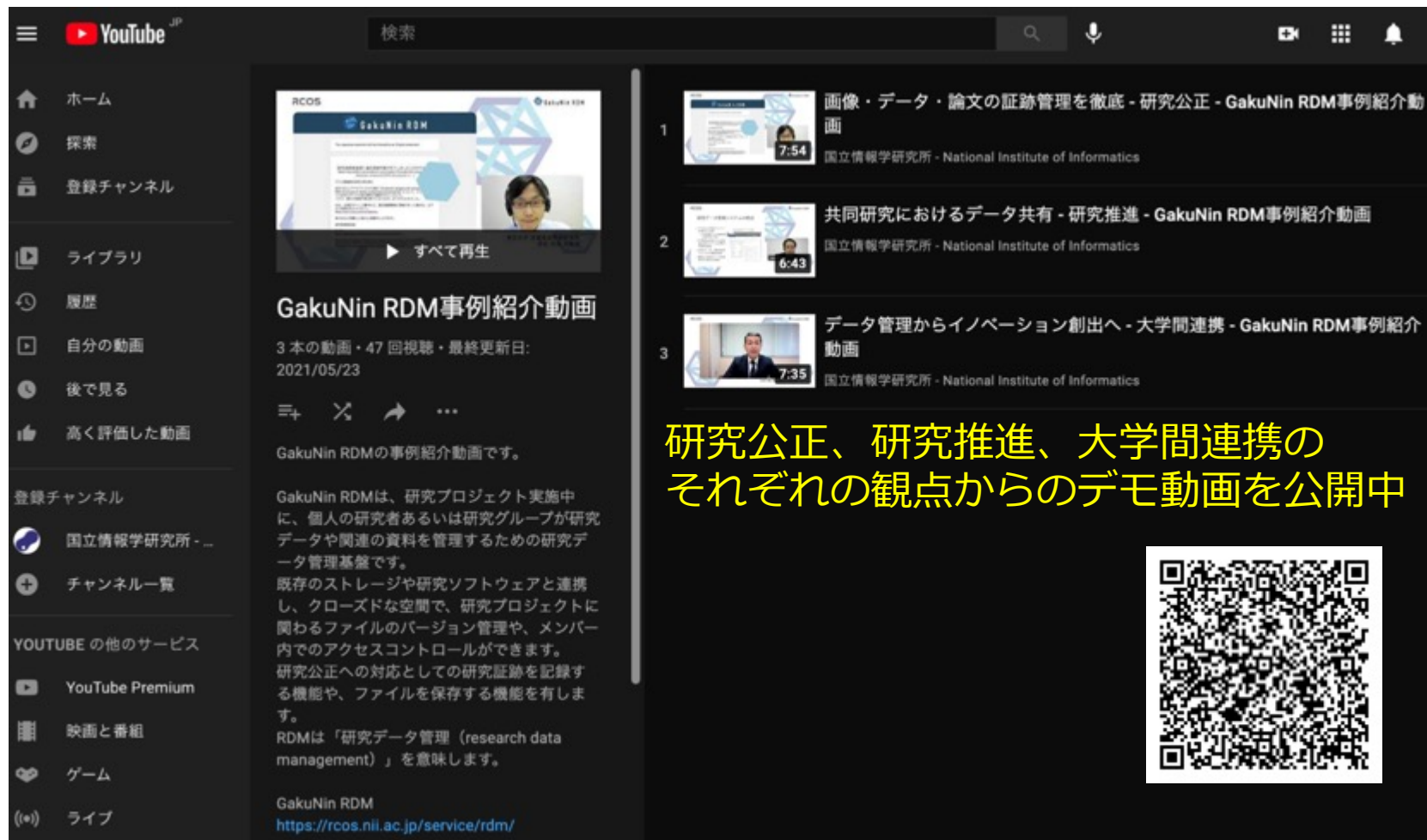


研究データ管理基盤を軸とした繋がり



NIIのYouTube チャンネル

これまでのGakuNin RDM事例紹介動画リスト



The screenshot shows the YouTube channel page for GakuNin RDM. The main video player displays a video titled "GakuNin RDM事例紹介動画" (GakuNin RDM Case Study Introduction Video) with 3 videos and 47 views. Below the player, there is a description in Japanese explaining that GakuNin RDM is a research data management base for managing research data and related materials. It mentions features like version management, access control, and recording research evidence. The URL <https://rcos.nii.ac.jp/service/rdm/> is provided.

On the right, a list of three videos is shown:

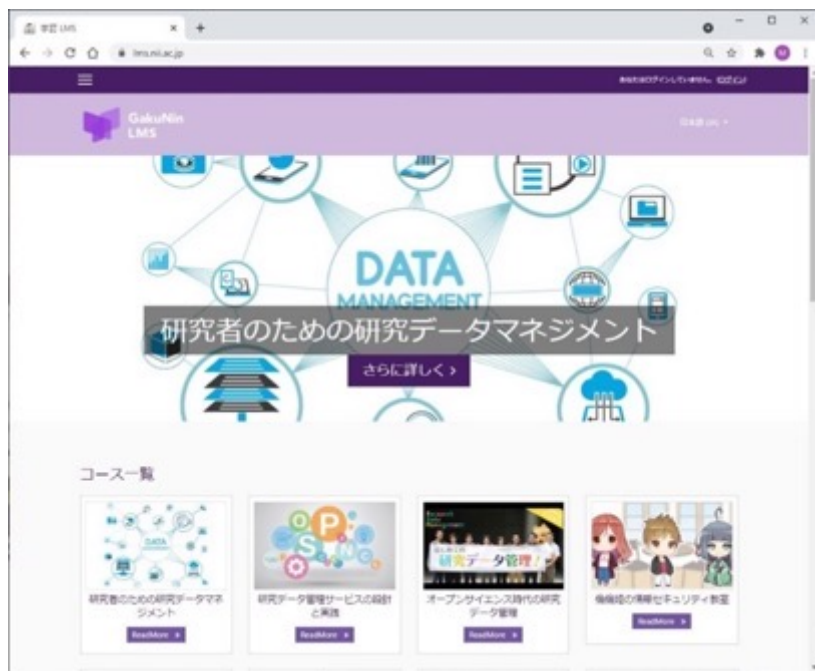
- 1 画像・データ・論文の証跡管理を徹底 - 研究公正 - GakuNin RDM事例紹介動画
国立情報学研究所 - National Institute of Informatics (7:54)
- 2 共同研究におけるデータ共有 - 研究推進 - GakuNin RDM事例紹介動画
国立情報学研究所 - National Institute of Informatics (6:43)
- 3 データ管理からイノベーション創出へ - 大学間連携 - GakuNin RDM事例紹介動画
国立情報学研究所 - National Institute of Informatics (7:35)

Overlaid on the right side of the screenshot is the text: **研究公正、研究推進、大学間連携のそれぞれの観点からのデモ動画を公開中** (Currently publishing demo videos from the perspectives of research fairness, research promotion, and university cooperation).

A QR code is located at the bottom right of the screenshot, likely linking to the channel or the video list.

NIIのYouTube チャンネル GakuNin RDM事例紹介動画リスト
<https://www.youtube.com/playlist?list=PLKzfdUM-Rtqyj44t821KN1xO5lt78Ea4O>

研究データ管理のトレーニングコースの整備



研究者向け

「研究者のための研究データマネジメント」



支援者向け

「研究データ管理サービスの設計と実践」



入門編

「オープンサイエンス時代の研究データ管理」

<https://lms.nii.ac.jp/>

2021年6月14日 正式運用開始（申込受付中）

機関管理者用オプション機能の提供

自機関ユーザの受講履歴取得機能

9月よりβ版提供予定（先行利用 申込受付中）

ラーニングアナリティクス機能 他

Apache Superset

同じ所属機関ユーザのデータのみ表示
デフォルトのグラフセットを用意

Jupyter Hub

解析・データ取得のサンプル
ソースコードを提供

Jupyter Hubの解析結果を
Apache Supersetで描画可能



Apache Supersetで編集可能 &
新たなグラフをダッシュボードに追加可能

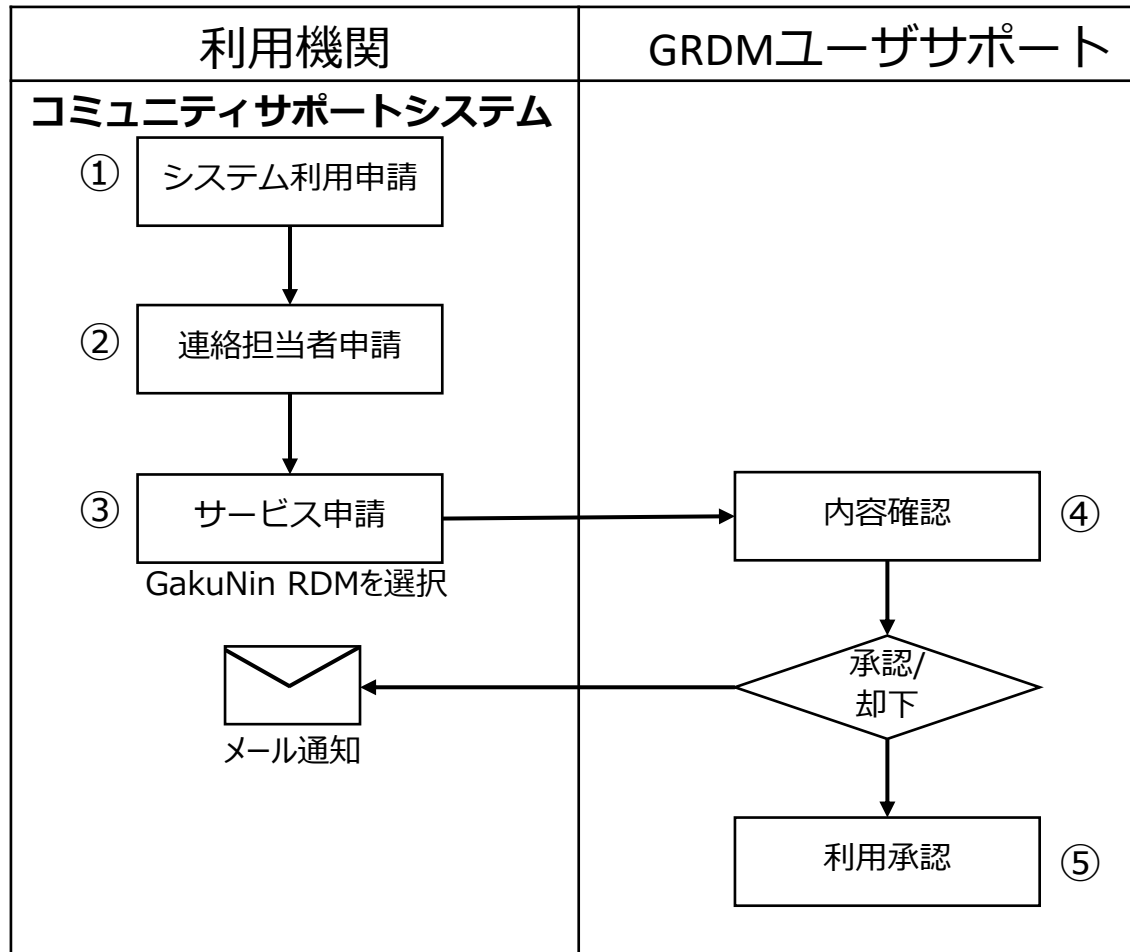
GakuNin RDMの 利用申込み方法

GakuNin RDMのご利用申請とお問合せ先

- GakuNin RDMは利用申請の受付中です。まずは貴機関の情報基盤センターまたは情報システム部門のシステム導入ご担当者様にご相談ください。
- 申込みはGakuNin RDMユーザサポートページから、コミュニティサポートシステムにて、貴機関のシステム担当部門のご担当者様から、お申し込みしていただく必要がございます。
 - GakuNin RDMユーザサポートページ：
<https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/display/gakuninrdmusers>
 - コミュニティサポートシステム（利用申請）
 - <https://community.nii.ac.jp/>
- ご不明点・ご質問は下記のメールアドレスまでお問合せ下さい。
 - GakuNin RDMユーザサポート rdm_support@nii.ac.jp



GakuNin RDM利用申請の流れ



「コミュニティサポートシステム」 (<https://community.nii.ac.jp/>)
 でアカウント作成後に、「サービス申請」で「GakuNin RDM」を申込み
 になります。原則、ご利用申請の承認の翌月15日を目処にシステム環境を提供。

まとめ

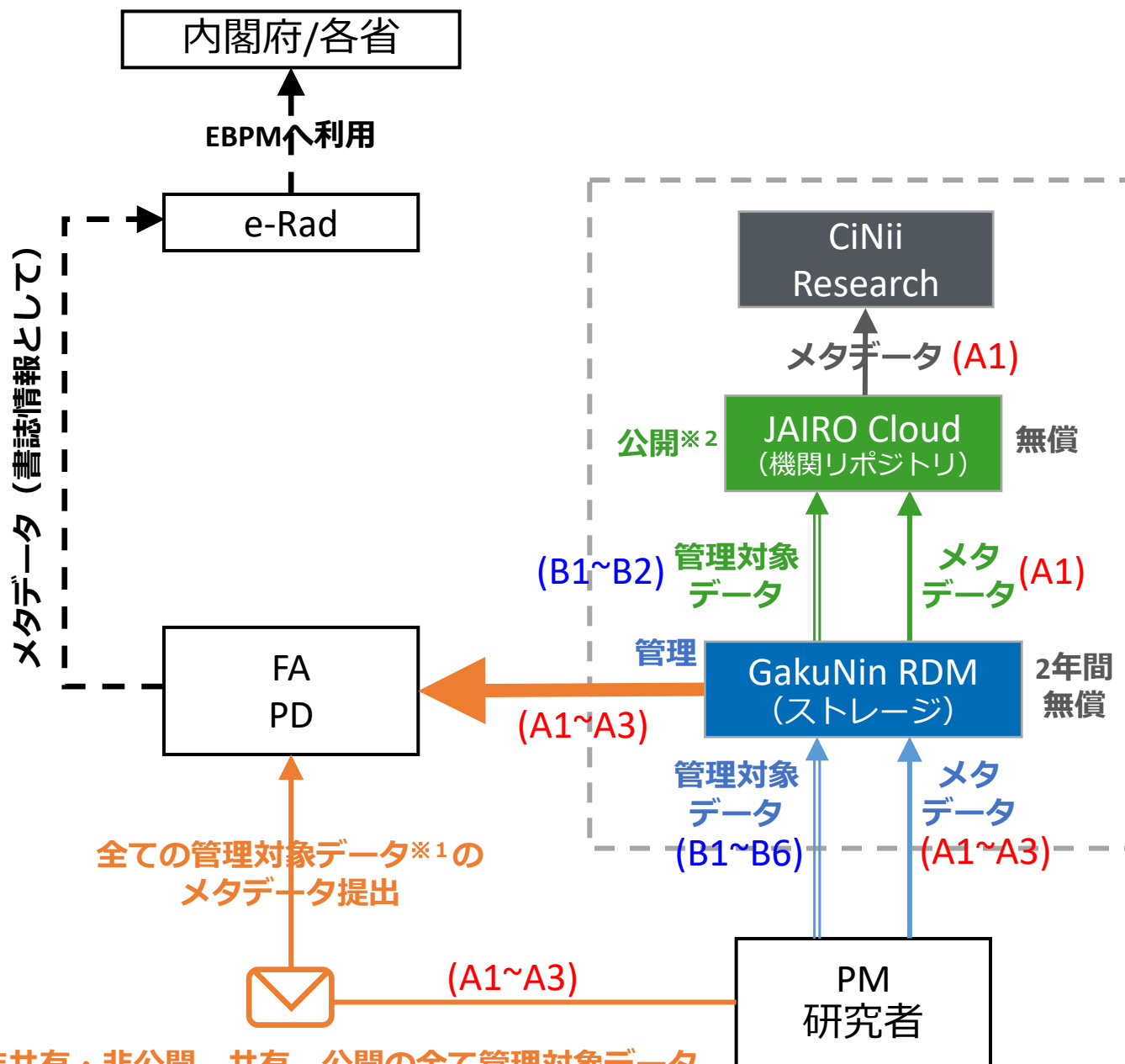
- 2021年2月より本運用が開始した、GakuNin RDMとはどのようなサービスか概要を紹介した。システムはKubernetes上でのCI/CD運用で可能な限り無停止アップデート、自動復旧などを採用しており、24/365のオペレータ配置でのシステム監視を実施している。
- 政府にて「第6期科学技術基本計画」や「公的資金による研究データ管理・利活用に関する基本的な考え方について」が閣議決定されたあと、大学において組織的な研究データマネージメントの必要性が高まり、利用申請やお問合せが増加傾向にある。
- 利用希望される場合は、NIIのコミュニティサポートシステムにて申請機関アカウントを登録し、その後に各サービス（GakuNin RDM）の利用申請を申し込む。利用申請後に利用目的が規約に合致しているかの審査を実施し、承認がえられた場合は申込み翌月中旬までに環境を準備して引き渡しとなる。
- 学術機関以外に民間企業等の利用については、申請と審査は必要ではあるが、公的研究費を受けている研究プロジェクトや、学術機関との共同研究での利用などの名目であれば利用可としている。

事前のご質問へ回答

事前のご質問へ回答1

- **GakuNin RDMとJAIRO Cloud (WEK03) の連携について、具体的にいつごろ、どのようなことができるようになるのでしょうか。**
 - GakuNin RDMとJAIRO Cloud (WEK03) の連携機能については、2022年5月の提供を予定しています。GakuNin RDM中の管理対象データに管理用のメタデータを付与して、JAIRO Cloudの登録ワークフローへ送信できるようになる予定です。
- **GakuNin RDM内では、プロジェクトの関係者だけがデータを共有できるので、プロジェクト外の人にデータを公開するには、機関リポジトリ等へ公開可能なデータを別途、登録する。場合によってはGakuNin RDMと機関リポジトリ等へ重複して保存するという理解でよろしいでしょうか？**
 - GakuNin RDMプロジェクト外の人にデータを公開するには、機関リポジトリ等へデータを公開していただく必要があります。機関リポジトリへのデータ登録後も、研究者が管理対象データを保存しておきたい場合は重複して保存する場合も考えられます。

MSにおける管理対象データ・メタデータの流れ（推奨スキーム）



※1) 非共有・非公開、共有、公開の全て管理対象データ

※2) PWによる共有も含む

事前のご質問へ回答2

- GakuNin RDM ユーザーサポートサイト> よくあるご質問を読みました。
「GakuNin RDMからJAIRO Cloud (WEKO3) へはシステム連携して、機械的にメタデータ登録と公開用ファイルを整理して提出する設計を想定」とあります。
「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」P.11-12 別紙「メタデータの共通項目」を、GakuNin RDMに記載するフィールドは、あるのでしょうか？
 - 「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」の別紙「メタデータの共通項目」の登録するフィールドは2021年度内に実装予定です。
- 上述「メタデータの共通項目」をWEKO3に記載する際、JPCOARスキーマと「メタデータの共通項目」の対応が分かる資料があるのでしょうか？「メタデータの共通項目」の「データの分野」は、JPCOARスキーマだと「主題」で属性はその他を選ぶことになるのでしょうか？
 - 『ムーンショット型研究開発制度におけるメタデータ説明書 第2版』も「メタデータ共通項目」と項目が共通化されましたので、本説明書がJPCOARスキーマへのマッピングの参考になると思います。下記文書策定時の策定時の補助資料では、ご認識の通り「データの分野」のマッピングがJPCOARスキーマでは要素名が「主題」で属性が「その他」の案となっていました。
 - https://www8.cao.go.jp/cstp/ms_metadainstructions.pdf

参考：基本的考え方におけるメタデータの共通項目

(赤字箇所は今後変更予定)

Research Center for Open Science and Data Platform

	項目	必須/任意	備考
1	資金配分機関情報	必須※	公募型の研究資金を配分した資金配分機関（府省含む）の英語略称 公募型の研究資金以外の場合は記入不要
2	e-Radの課題番号	必須※	公募型の研究資金の場合は、e-Radに登録した課題番号 公募型の研究資金以外の場合は記入不要
3	プロジェクト名	必須※	プロジェクトの研究代表者が統括する研究開発の範囲の名称 公式な名称がない場合は、研究者の所属機関のルールに従って入力
4	データNo.	必須	管理対象 データを一意に特定するための番号 公募型の研究資金を配分した資金配分機関が付与 公募型の研究資金以外の場合はデータ管理機関（項目14）が付与
5	データの名称	必須	学会資料、報告資料、測定結果などの中身の分からない名称は避ける
6	掲載日・掲載更新日	必須	メタデータの掲載日・掲載更新日
7	データの説明	必須	端的かつ中身の分かる内容を記載
8	データの分野	必須※	e-Radの研究分野（主分野）。e-Radとの連携により、自動入力される予定。
9	データ種別	必須	研究データ基盤システム上では、通常は「データセット」を標準とするが、データの特性に応じて「データセット」以外の種別を選択可能
10	概略データ量	任意	1GB未満、1GB以上10GB未満、10GB以上100GB未満、100GB以上等の区分により記載
11	管理対象データの利活用・提供方針	必須	無償/有償、ライセンス情報、その他条件（引用の仕方等）等を記載
	アクセス権	必須	公開/共有/非共有・非公開/公開期間猶予から選択
	公開予定日	必須	公開期間猶予を選択した場合、公開予定日を記載
12	リポジトリ情報	必須	現在のリポジトリ情報、あるいはプロジェクト後のリポジトリ情報
	リポジトリURL・DOIリンク	任意	情報があれば記載
13	データ作成者	任意	管理対象 データを生み出した研究者の名称
	データ作成者のe-Rad研究者番号	任意	管理対象 データ作成者のe-Radの研究者番号
14	データ管理機関	必須	各データを管理する研究開発を行う機関のe-Radに登録された法人名
	データ管理者	必須	データ管理組織において各管理対象データを管理する担当者の名称
	データ管理者のe-Rad研究者番号	任意	管理者のe-Radの研究者番号 e-Rad研究者番号がない管理者は記入不要、ある場合は必須
	データ管理者の連絡先	必須	データ管理者の所属機関の住所や電話番号、メールアドレス等
15	備考	任意	

※公募型の研究資金による研究活動の場合

<https://www8.cao.go.jp/cstp/kenkyudx.html>

RCOS

rdm_support@nii.ac.jp